

濃霧事情から見える大気汚染対策の成果

上海駐在員事務所
舛本 誉人

「ニーハオ！」今回は冬の時期にしばしば発生する中国(上海)の濃霧事情について紹介します。

先日、上海市周辺の都市へ出張すべく、車で高速道路を走っていた折、前方の視界がどんどん悪くなったかと思うと、大渋滞に巻き込まれ、そのまま立ち往生という事態に遭遇。原因は濃霧による高速道路の通行止めで、結局その場で2時間ほど足止めされました。

この濃霧、気温の関係で自然的に発生したものと、工場などでの生産活動により放出される排ガスや、一般家庭で暖を取るために焚かれる石炭の排煙などの人為的に発生したものが相交わって、深刻な濃霧を発生させていると言われています。

一方で本年においては、濃霧を原因とする高速道路の通行止め回数が、以前と比べ随分と少なくなり、また通行止め時間も短くなっているとのこと。事実、2018年の「PM2.5」の平均濃度は前年対比で約9.3%改善(中国生態環境省発表:全国338都市を対象)しており、また大気状態が「優良」となった期間割合も前年対比で1.3%増加しているようです。

改善した背景には、中国政府が注力する大気汚染対策、「青空を守る戦い」に勝つための3年行動計画(2017年発表)があります。

行動計画を抜粋すると、石炭の小規模利用、生産活動で排ガスが発生する企業への低排出設備設置の義務付け、大気汚染企業への取締強化、ディーゼルトラックへの大気汚染対策の推進、物流手段をトラックから鉄道へシフトさせる指導などがあります。

実際に、生産活動を行う現地日系企業へ、こうした環境規制強化の状況についてヒアリングを実施すると、10社中10社が「ここ最近の政府による環境規制への取締強化が著しい」との回答が返ってきました。

中国で生産活動を行う企業にとって、「環境保全」は欠かすことができないキーワードとなっています。

話は出張のため車で移動した時に戻ります。通行止めが解除となり、最初のサービスエリア内にオレンジ色のボックスが設置してあり、満室状態でした。これは民間企業が運営する移動式仮眠ボックスで、約600円で3時間利用できます。室内は飛行機のファーストクラスのように高級感があり、空調・酸素濃度調節・音楽・映画視聴などもできます。

濃霧による通行止めという状況をビジネスチャンスと捉える発想、ここ中国ならではの商魂逞しさの一端を垣間見ることができました。

濃霧による視界不良



立ち往生中の光景



サービスエリアにある仮眠 BOX

